

## 燕市西蒲原郡「生活科」活動報告

燕市立燕南小学校 大津 正行

### 1 研究主題 「子どもの思いを大切にした生活科授業の工夫」

### 2 研究の概要

#### (1) 第1回部会 6月1日(水) 実習研修「えだ豆を使ったずんだ餅作り」

指導者 新発田市立住吉小学校 笠原 公子 教諭

会場 燕市立燕南小学校

##### ○ 実技研修の主な内容

①作り方の説明

②道具を使うときの諸注意(子どもが使う場合の)

③実習、試食

##### ○ 成果

作る工程が低学年の子どもでもやりやすいフード

プロセッサーとか、お湯を沸かすだけとか、本当に簡単に作れることが分かった。枝豆も、冷凍の茶豆で作ると甘みが増して、おいしいずんだ餡が作れることを知ることができ、大変だ、という意識がなくなり、自学級でもやってみようという意欲の湧く実習研修であった。



#### (2) 第2回部会 11月30日(水) 授業研究「あぞびランドによるこそ」

～うごくおもちゃ～

授業者 燕市立燕南小学校

大滝 優紀 教諭

指導者 長岡市立中之島中央小学校

佐藤 春男 校長

##### ○ 授業の概要

自分の作ったうごくおもちゃの遊び方の説明や工夫したところ

(見てほしいところ)、困っていること(おもちゃをもっとパワーアップさせたいところ)を、前半後半に分かれ、お互いに説明し合ったり、遊び合ったり、教え合ったり感想を言ったりする活動を行う。振り返りカードに記入し、遊びランドの準備に向けて意欲を高める授業展開であった。



##### ○ 協議

<友達の作った様々な「うごくおもちゃ」で遊ぶ場を設定したことは、子どもの思いを深めるのに有効であったか>

<おもちゃをより良い物にするためのアドバイスをさせたことは、進んで友だちとかかわり、個々の気づきの質を高めるのに有効であったか>

の2つの視点に立った協議を行った。

特に、子どもの思いが深まったかどうかという判断の難しさ、この場面でのアドバイスが必要であったかが協議のポイントとなった。



##### ○ 指導

多くの教科の目標は、学びの対象を「理解」した見方・考え方の変容にある。生活科は、「自立への基礎を養う」ことである。生活科は「気づき」を目標にしないものの、重視している。それは、次の自発的な活動を作り出す起爆剤となるのが子どもの「気づき」だからである。気づきの質を高め、次の活動を充実させていくことで、学びの過程を子どもがつくり出すことが、「学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立への基礎を養う」のである。

「子ども思いを大切にした生活科授業」は、「子どもがつくり出す活動の質を、子どもが自分で高めていく学びを保障する」ことと言える。

大滝実践からは、「明確な学力の保障」があり、「気づきの質の高まり」を保障していると、具体的な場面を通して指導をいただく。